

ビタミン学は13種類あるビタミンを毎回1種類ずつ取り上げて教えている。

# 山本式知識整理術で、 まずは知識を蓄積し、 自分で発信する力を鍛える

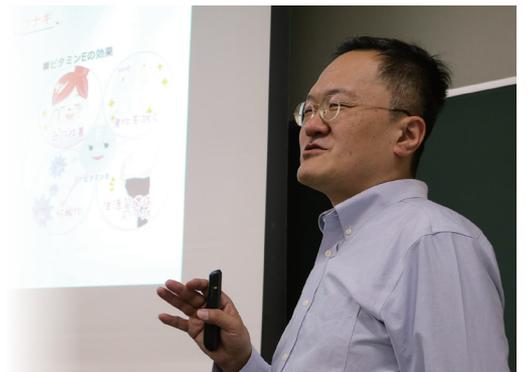
大学院社会産業理工学研究所 生物資源産業界 准教授  
**山本 圭** (やまもと けい)

学部、学科を問わず「大学でどんなことをしているの?」と訊かれた経験、誰にもあるのではないのでしょうか。社会に出れば、様々な局面で自分の考えを短く的確に言葉にすることが求められ、同じ分野の人と話をするときには、正しい知識が備わっていないと、正しい話が出来ない。そのため「知識の整理が重要で、キーワードとなる単語を覚える暗記物もある程度必要。まずは知識を蓄積し、基礎的なことを覚え、自分で表現し、発信できる力をつける授業を目指しています」と話す山本先生。

今回、取材に伺ったのはビタミン学でしたが、食と健康概論や病態学など先生が担当する他の授業も、基本的なことを覚えて文章で表現したり、口頭で説明できるようなことになることを目的に、山本先生オリジナルのレジュメを使って授業を進めています。レジュメには図やイラストが多用され、視覚的にもわかりやすい上、キーワードとなる単語を覚えやすいよう、重要なところは穴埋め形式に。章ごとに小括もあるので、順をおって内容を整理できます。

今週行った内容を元に、次週はおさらいの小テストがあり、期末テストでは「ビタミンAの代謝と機能について述べよ」といったような総括の論述問題が出題されます。要所要所を押さえることで、知識の定着を自身で確認できるよう、工夫されています。「文章にまとめることができれば、プレゼンも出来るし、商品開発や様々なことに応用できる。学生の中にはプレゼン能力に長けた人もいますが、パフォーマンス重視で、知識を伴った話ができない傾向にあります。仕事に就いた際、相手の話に即座に対応したり、議論していく力を身につけるためにも、今のうちから誰にでもわかりやすい言葉で簡潔に書く、答えるといった力を養う必要があると思います。この授業はそのための練習の場です。」

まずは国語力を鍛える!という考えに至ったのは、先生自身が何かにつけてその必要性をひしひしと感じているからだそう。どんなに能力があっても、それを外部に発信できる力がなければ、宝の持ち腐れ。そんな親心を感じる授業でした。



単語を覚えるにも、生物学の知識がない学生にとってはちょっと難しいそうだが、ノートチェックも行っていて、理解度を丁寧に見てくれるのが山本先生の授業の魅力。

